筑西市議会予算特別委員会

会 議 録

(令和7年第1回定例会)

筑西市議会

予算特別委員会 会議録（第1号）

1 日時

令和7年3月7日（金） 開会：午前10時 散会：午前11時55分

2 場所

全員協議会室

3 審査案件

- 議案第36号 令和7年度筑西市一般会計予算
議案第37号 令和7年度筑西市国民健康保険特別会計予算
議案第38号 令和7年度筑西市後期高齢者医療特別会計予算
議案第39号 令和7年度筑西市介護保険特別会計予算
議案第40号 令和7年度筑西市病院事業債管理特別会計予算
議案第41号 令和7年度筑西市水道事業会計予算
議案第42号 令和7年度筑西市下水道事業会計予算
議案第43号 令和7年度筑西市農業集落排水事業会計予算
-

4 出席委員

委員長	藤澤 和成君	副委員長	鈴木 一樹君				
委員	新井 暁君	委員	國府田和弘君	委員	塚田 砂与君		
委員	日高 久江君	委員	水柿 美幸君	委員	森 正雄君		
委員	仁平 正巳君	委員	堀江 健一君	委員	赤城 正徳君		

5 欠席委員

なし

6 議会事務局職員出席者

事務局長	中島 国人君	書記	新井 隆一君	書記	佐竹 学君		
書記	宮川 尚訓君	書記	小倉 一希君	書記	高松 賢太君		

委員長 橋本和彦

○議長（田中隆徳君） おはようございます。

本日7日、10日、12日の3日間、令和7年度当初予算をご審議いただきます。

新年度予算については、2月7日の予算内示会において説明を受けたとおりでございます。

委員の皆様には、3日間、集中した審査をお願いすることとなりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

次に、市長からご挨拶をいただきます。

○市長（須藤 茂君） 改めまして、おはようございます。今日は予算特別委員会にご出席を賜りまして、これから3日間いろいろと委員の皆様方にはご意見を頂戴したいと。

令和7年度予算の概要につきましては、本会議においてご説明を申し上げたとおりでございますけれども、4月に市長選挙が行われることを考慮いたしまして、極力政策的な予算を除き、既に議決をいただいている継続費等のほか、年間を通して市民生活に支障のない範囲での予算を骨格予算と位置づけ、編成したところでございます。骨格予算でありますけれども、人間ドック健診費の助成や防犯カメラ設置への助成などにつきましては、市民の安心、安全に直結する経費として当初予算に盛り込んだところであります。その結果、一般会計予算は昨年度比3.6%増の約489億8,000万円となりまして、特別会計及び企業会計を含めた総額は、昨年度比2.3%増の818億円余となりました。この後詳細に審査をいただき、委員の皆さんのご理解を賜りますようしっかりと職員も説明を申し上げますので、よろしくお願い申し上げたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

○議長（田中隆徳君） ありがとうございます。

ここで、市長は公務のため、退席いたします。

〔市長 須藤 茂君退席〕

○議長（田中隆徳君） ただいまから、予算特別委員会の委員長、副委員長の互選をしていただきます。

筑西市議会委員会条例第10条第2項の規定では、年長の委員が職務を行うとされておりますが、委員長が互選されるまでの間、議長において委員長の職務を行いたいと存じますが、これにご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（田中隆徳君） ご異議なしと認めます。

それでは、これより、予算特別委員会を開会いたします。

ただいまの出席委員は11名であります。よって、会議は成立しております。

これより委員長の互選を行います。

互選の方法については、いかがいたしましょうか。

（「議長一任」と呼ぶ者あり）

○議長（田中隆徳君） ただいま議長一任の声がありましたので、議長において指名いたします。

予算特別委員会の委員長に藤澤和成委員を指名いたします。藤澤和成委員を予算特別委員会委員長に指名することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（田中隆徳君） ご異議なしと認めます。

よって、藤澤和成委員を予算特別委員会委員長とすることに決しました。

藤澤委員長、委員長席にお着きいただき、ご挨拶をお願いいたします。

〔委員長 藤澤和成君委員長席に着く〕

○委員長（藤澤和成君） 改めまして、こんにちは。皆様のご推薦をいただきまして、予算特別委員会の委員長を務めることになりました。皆様のご協力をいただきながら、円滑な議事進行を進めてまいりたいと思います。ここからは着座にて失礼いたします。

次に、副委員長の互選を行います。

互選の方法については、いかがいたしましょうか。

委員長に一任していただいてよろしいですか。

〔委員長一任〕と呼ぶ者あり

○委員長（藤澤和成君） では、委員長一任ということですので、委員長において指名いたします。

予算特別委員会の副委員長に鈴木一樹委員を指名いたします。鈴木一樹委員を予算特別委員会副委員長に指名することにご異議ございませんか。

〔異議なし〕と呼ぶ者あり

○委員長（藤澤和成君） ご異議なしと認めます。

よって、鈴木一樹委員を予算特別委員会副委員長とすることに決しました。

次に、本委員会に付託されました議案第36号「令和7年度筑西市一般会計予算」から議案第43号「令和7年度筑西市農業集落排水事業会計予算」まで、以上8案を一括上程いたします。

これより審査に入りますが、これら議案につきましては、既に予算内示会において説明を受けておりますので、議案の説明は省略いたします。

また、審査は部単位で進めてまいりますが、効率的な審査を図るため、質疑の際には、予算書の何ページ、何事業あるいは何費についての質疑を示してからお願いいたします。

また、歳入に関する予算質疑では、令和7年度当初予算主管課一覧にて各事業等の主管課において記載がございますので、ご確認をいただきたいと思います。

また、各部への質疑回数につきましては、先例に倣い、それぞれ3回までを基本とし、効率的な審査を進めてまいりたいと存じますので、ご協力をお願いしたいと思います。

また、筑西市議会基本条例第19条の規定による委員間討議を希望される場合は、挙手を願いたいと思います。

なお、採決は、全ての審査が終了した後に行います。

それでは、初めに、財務部関係の予算について、審査を願います。

それでは、質疑を願います。

仁平委員。

○委員（仁平正巳君） 予算書の4ページ、歳入です。

項6雑入の5億9,458万3,000円の主な内容について説明願います。

○委員長（藤澤和成君） 以上、1点でよろしいですか。

それでは答弁願います。

大木財政課長。

○財政課長（大木祐二君） ご答弁いたします。

予算書の29ページ、こちらが雑入の詳細になってございます。こちらを御覧いただきますと、節の区分に括弧で総務、29ページが総務、30ページが民生、衛生、それ以降各款ごとの雑入の区分ごとに、こちら予算計上されております。

以上でございます。

○委員長（藤澤和成君） 仁平委員。

○委員（仁平正巳君） それで、それを積み上げたのが5億9,458万3,000円になるわけでしょう。これ、数字が違うような気がするのだけれども。こっちは5億9,341万円。この差はどういうわけなの。

○委員長（藤澤和成君） 大木財政課長。

○財政課長（大木祐二君） お答えいたします。

29ページ、こちらの雑入、先ほどの雑入なのですが、こちらは項の合計額5億9,341万円ですので、すみません。仁平委員の質疑の額と違います。

○委員長（藤澤和成君） 松岡財務部長。

○財務部長（松岡道法君） 仁平委員のご質疑にちょっと代わって、多分誤解していたので、申し訳ございません。

仁平委員の予算書のほうのご質疑の科目は、款21項6の雑入でございますので、事項別明細の28ページの一番下段の目1滞納処分費からそれぞれの目の合計でございまして、一番大きいのは目6雑入なのですがそれ以外に滞納処分費と弁償金というものが積み上がる形で項の合計になるという、それが先ほどの財政課長との答弁の差額でございます。

以上でございます。

○委員長（藤澤和成君） 森委員。

○委員（森 正雄君） 予算書の6ページであります。

款12公債費で約42億円程度の償還、公債費になってございますけれども、当然財政計画は立てていると思います。今後この公債費はどのようになっているのか、まず1点伺います。

それと、69ページ、定額減税調整給付金5億3,000万円、これについて、これはいわゆる定額減税がし切れない方への給付というような説明があったように記憶しているのですが、これは定額減税し切れない人たちが全て、これは申請があった場合、全て賄える金額なのかどうか、2点伺います。

○委員長（藤澤和成君） それでは、初めに公債費については、大木財政課長、答弁願います。

○財政課長（大木祐二君） 答弁いたします。

公債費につきましては、これから始まる大型事業、道の駅の拡張整備事業であったり、玉戸・一本松線整備事業、そういった事業がこれから控えております。こちらは借入れをしたとしても、据置期間がございますので、元金が発生するのが3年後とか、そういった形になってきます。そういったことを踏まえますと、これまでも借りていたものが元金が始まるというのもありまして、しばらくの間はこの公債費というものは若干増えてくるのかなというところではございますが、この大型事業がある程度落ち着いた後には、この公債費についてもなだらかに減少していくものと考えております。

以上でございます。

○委員長（藤澤和成君） 続いて、岩岡市民税課長、答弁願います。

○市民税課長（岩岡和宏君） 森委員のご質疑に答弁いたします。

令和7年度の物価高騰対応重点支援地方創生事業のうち、定額減税調整給付金、不足額給付金の内容につきましては大きく2つありまして、1つは部長のほうから議会のほうで説明がありましたように、令和6年分の所得税額及び定額減税額が確定の、今ちょうど確定申告をやっていますので、そういうのが終了して、確定後に令和6年度に実施しました定額減税の給付金、これの不足する方、これに対して給付を行う予定でございます。そして、今回この令和7年度で全てが賄える予定でございます。

それから、もう1つが、これは青色事業専従者、それから白色事業専従者、こちらの方が対象になりまして、令和6年度に定額減税の対象とならなかった方、あるいは当然事業専従者ですので、扶養親族としてもなっていない方、かつ筑西市では社会福祉課のほうで実施しました低所得者の交付給付金、こちらにも該当しなかった方に対して給付を行う予定であります。こちらは、申請をいただいて給付するという方式を取りたいというふうに考えております。

以上でございます。

○委員長（藤澤和成君） 森委員。

○委員（森 正雄君） 分かりました。

今公債費のほうなのですけれども、今後若干増えていくというような話がありました。大体平準化を目指しているのだろうというふうに思うのですけれども、最高というか、見通しとして、公債費計上額、どのくらいに上がるのですか。これが1点。

それと、今の定額減税、複雑ですね。分かります。何となく分かったような、分からないようなことでもすけれども、基本的には5億3,000万円ですべて残った分も含めて賄えるということですね。2点です。

○委員長（藤澤和成君） 大木財政課長。

○財政課長（大木祐二君） お答えいたします。

これはあくまでも計画というか、予想でございますが、50億円前後、こちらぐらいまでは公債費上がるのかなというふうに想定してございます。

以上でございます。

○委員長（藤澤和成君） 岩岡市民税課長。

○市民税課長（岩岡和宏君） 答弁いたします。

ご指摘のとおり、令和7年度の予算に計上させていただいております5億3,000万円、定額減税調整給付金、こちらですべて賄える見込みとなっております。

以上でございます。

○委員長（藤澤和成君） 森委員。

○委員（森 正雄君） 分かりました。

1点だけ、最後。公債費の関係です。50億円前後という数字をおっしゃいましたけれども、かなり予想される総予算の中での公債費の割合というのは高くなると予想されます。つまりは経常収支比率、これがかなり上がっていくなというような思いを持つところであります。そういう中で、できるだけ公債費の事業もあるでしょうけれども、その辺、公債費の平準化に向けた取組というのはしっかり取り組んでいただ

きたい、このように要望いたしまして、終わります。

○委員長（藤澤和成君） 日高委員。

○委員（日高久江君） 予算書49ページ、目6 公共施設マネジメント推進費なのですが、定例会で増渕議員の一般質問で、令和6年度の包括管理について予防保全に至っていないということで、積み残し修繕を行ってきたというふうに答弁されていたのですが、令和7年度の予算の編成をするに当たってはどのような方針で進めていかれるのか、お願いします。

○委員長（藤澤和成君） 1点でいいですね。

○委員（日高久江君） はい。

○委員長（藤澤和成君） 坂谷管財課長、答弁願います。

○管財課長（坂谷康弘君） お答えいたします。

公共施設包括管理事業3億6,000万円ほどありますが、節10需用費1億800万円、節12委託料2億5,000万円ほど計上されております。これが包括管理に係る事業でございますが、その中で行う事業ですけれども、先ほど委員ご質疑ありました予算の取り分けということですが、トライアージを行っております、各課からどのような建物について直すところがあるかということをもとに7月にヒアリングをします。その後予算計上、12月に行いますが、そのときにまた改めてどのように直していきたいか、市のほうでどのような方針で建物について、この建物は残していくべきなのか、統合配置して複合化してなくしていくかということをお考えながら、よりよい予算を配置するように計上しております。

その中でありました需要費1億800万円につきましては、小規模修繕、我々のほうで130万円未満のお金についても併せてトライアージしております、なるべく大なり小なり細かく建物について予防保全のほうにいくように仕向けていくように、担当課と財政課と話し合いながら計上しているものでございます。

以上でございます。

○委員長（藤澤和成君） 日高委員。

○委員（日高久江君） そうしますと、7月にヒアリングで検討ということになりますと、令和7年度に工事に入るというのはなかなか時間的に難しいのかなというふうに感じるのですが、その点はいかがでしょう。

○委員長（藤澤和成君） 坂谷管財課長。

○管財課長（坂谷康弘君） 申し訳ございません。7月にヒアリングを行ったときは、来年度の予算のこととございまして、令和7年度の予算については令和6年度、今年度の7月にヒアリングを行っております。ですから、次年度にすぐかけられるような形でヒアリングを行っております。なるべく遅れるわけではなくて、壊れたら直すということでもなくて、計画的にやるように仕向けておりますので、よろしく願いいたします。

○委員長（藤澤和成君） 日高委員。

○委員（日高久江君） 分かりました。

○委員長（藤澤和成君） 水柿委員。マイクをお願いします。

○委員（水柿美幸君） 2点お伺いします。

まず、予算書11ページの地方債、ちょっと待ってください。11ページの地方債でよかったと思うのですが、スピカビル大規模改修事業についてどの辺を改修するのか。

あと、予算書42ページの土地管理費ですが、これもどの辺をやるのか、詳しくお伺いします。

○委員長（藤澤和成君） 以上2点でいいですね。

○委員（水柿美幸君） はい。2点で。

○委員長（藤澤和成君） それでは、初めに地方債のスピカビル大規模改修事業、それから土地管理費について。

坂谷管財課長。

○管財課長（坂谷康弘君） 答弁いたします。

令和7年度のスピカビル大規模修繕の工事につきまして工事箇所ということですが、屋上防水工事、壁のクラックの補修、冷温水器の発生機のオーバーホール、全部取り替えということですが、低圧分電盤の更新というのをスピカビル大規模改修課のほうで予定しております。その中からのスピカビルの地方債となっております。

あとは、土地管理費につきましては、場所ですね。

（「はい」と呼ぶ者あり）

○管財課長（坂谷康弘君） （続）除草する管理場所といたしましては、折本地内の市有地、これ管財課が管理しているところであります。鷹ノ巣団地ののり面、樋口の市有地、あとは大村小学校のプール跡地は来年度公売する予定なのですが、一応入っております。あと富士の越のコミュニティ広場というところを予定しています。

それと、報酬のほうで任期職員2名を採用して、草刈り機ないし車を買う予定になっております。そこで、病院の跡地につきましても除草を考えているところでございます。

以上でございます。

○委員長（藤澤和成君） 水柿委員。

○委員（水柿美幸君） では、ちょっと確認しますと、土地の管理費というのは市有地の空き地の除草作業になるということですね。

（「はい」と呼ぶ者あり）

○委員（水柿美幸君） （続）今ちょっとお話出ましたが、大村小学校の校庭なんていうのも含まれるというか、廃校の管理費も含まれるという認識でよろしいですか。

○委員長（藤澤和成君） 坂谷管財課長。

○管財課長（坂谷康弘君） お答えいたします。

小学校の跡地につきましてもやる予定では考えております。

以上でございます。

○委員長（藤澤和成君） 水柿委員。

○委員（水柿美幸君） あと、私ちょっと勘違いしていたのですが、あけの元気館の東側の調査というのも入っているのかなと思ったのですが、これとは違うのですか。不動産鑑定委託料とかと書いてあるのですが。

○委員長（藤澤和成君） 坂谷管財課長。

○管財課長（坂谷康弘君） お答えいたします。

これは、市の市有地の売却に係る不動産鑑定費とか試掘調査ということなので、先ほど申し上げたプー

ルの跡地であったり、またこの間答弁いたしました消防署跡地とか、もし売るときの際の調査費とかになっております。

以上でございます。

○委員長（藤澤和成君） 鈴木委員。

○委員（鈴木一樹君） すみません。1点だけお伺いします。

予算書68ページの物価高騰対応重点支援地方創生事業の人材派遣委託料、こちらどういったことに対して人材派遣を委託するのか、お伺いいたします。

○委員長（藤澤和成君） 岩岡市民税課長、答弁願います。

○市民税課長（岩岡和宏君） 鈴木委員のご質疑に答弁いたします。

こちらの人材派遣委託料につきましては、令和6年度も実施しましたけれども、この後定額減税調整給付金の給付に当たりまして、こちらから対象者に確認書というものを送付いたします。その確認書に対しまして、電話での問合せ等があった場合に対しまして、市の市民税課の事務所の隣にコールセンターを設置いたしまして、そこに人材派遣の方を委託しまして来ていただきまして電話での対応、あとは返ってきた確認書の書類の整理等を委託する予定でございます。

以上でございます。

○委員長（藤澤和成君） 鈴木委員。

○委員（鈴木一樹君） 分かりました。ありがとうございます。大丈夫です。

○委員長（藤澤和成君） 以上で財務部関係の審査を終了いたします。

財務部の皆様、お疲れさまでした。

[財務部退室。市長公室入室]

○委員長（藤澤和成君） 次に、市長公室関係について審査願います。

それでは、質疑を願います。

では、塚田委員から。

○委員（塚田砂与君） 予算書60ページ、海外友好都市推進事業について、この内容説明をまずお願いします。

○委員長（藤澤和成君） 1ついいですか。

○委員（塚田砂与君） はい。

○委員長（藤澤和成君） それでは、答弁願います。

篠崎シティプロモーション推進課長。

○シティプロモーション推進課長（篠崎英俊君） お答えいたします。

海外友好都市推進事業ということで、海外との交流を図りまして、最終的に英語圏の都市と教育をはじめ経済、観光、そういった交流を図りまして、さらにシティプロモーションの観点も含めながら、海外へ本市の魅力発信等をしていくという事業でございます。

○委員長（藤澤和成君） 塚田委員。

41万4,000円となっておりますが、この金額が海外とのやり取りということで、金額が少な過ぎるというか、この金額などがどのどういうことになっているのか、ちょっと内容を詳しくお願いします。

○委員長（藤澤和成君） 篠崎シティプロモーション推進課長。

○シティプロモーション推進課長（篠崎英俊君） 今、皆さんご存じのことかとは思いますが、まだ具体的な交流ということでどこという形がはっきり決まっていないうな状態ですので、これから具体的に進められる場所を選定とか、そういった形でやっていく上で今調査研究という段階でもありますので、先進地への視察の旅費ですとか、あと提携先とか、そういったところに筑西市の名産品を送ってPRしながら交流を図っていけるような形で考えております。一応そういった形なので、あまり金額的に大きいものにはなっておりません。

○委員長（藤澤和成君） 塚田委員。

○委員（塚田砂与君） 旅費とかも細かく金額が出ていると思うのですが、現在の予定されているところとかもしあれば、そういうことをちょっと進捗状況というか、具体的にお願いします。

○委員長（藤澤和成君） 篠崎シティプロモーション推進課長。

○シティプロモーション推進課長（篠崎英俊君） 進捗状況ということで、先ほど具体的に決まっているところはないということではお話ししたのですが、今年度市内の職員のほうで海外連携都市研究チームというのを発足しまして、市長公室、シティプロモーション推進課、企画課、産業戦略課、商工観光課、農政課、教育委員会の指導課、そちらの職員と、あと筑西市の国際友好協会の会長のほうにもちょっとアドバイザーとして参加いただきまして会議を開催し、海外交流の可能性についてとか情報共有とかで検討してまいりました。3回ほど会議のほうをやりまして、そういった中で市内で英会話教室をなさっている方が市長室を訪れた際に、グアムの語学学校の方と交流があるという話を伺いまして、その方から筑西市が海外の都市と交流先を探しているということで話をつないでいただいて、グアムの政府観光局というところにお話が回りまして、その後グアムの政府観光局日本オフィスというところと連絡を取り合いまして、政府の観光局の日本オフィスの方が筑西市を訪れていただいて、その後こちらのほうでも今年になってからグアムの本局、グアムの観光局の職員が来日した際に、筑西市からちょっとお伺いしてお話をさせていただいたり、あと昨日も政府観光局の日本オフィスのほうにお伺いしたのですが、そちらで具体的に教育とか観光とか経済とかで交流が図ればということでお話をしてきまして、今後その間を取り持っていて進めていければということで動いているところでございます。

○委員長（藤澤和成君） 水柿委員。

○委員（水柿美幸君） 私も海外のことについて質疑したかったのですが、重ならないところで、この海外友好都市の見通しというか、今ありましたグアムというところと、どのぐらいのロードマップというか、見通しなどありましたらお願いします。

○委員長（藤澤和成君） 篠崎シティプロモーション推進課長。

○シティプロモーション推進課長（篠崎英俊君） 相手があることですので、いついつまでという完璧な部分というのは申し上げられませんが、来年度、令和7年度には教育関係の英語学習とか、そういった形でオンラインで交流とかができるように今進めております。さらに観光ですとか、経済の交流が図ればということで今進めているところではございます。

○委員長（藤澤和成君） 國府田委員。

○委員（國府田和弘君） 予算書57ページ、シティプロモーション推進事業の中でシビックプライド向上支援委託料というものがございます。ここで1,320万円、今年出ているのですけれども、多分去年も大体同じぐらいの金額出ているのではないかなと思うのですけれども、今年の事業内容をまずお伺いいたします。

○委員長（藤澤和成君） 1点でいいですか。

○委員（國府田和弘君） はい。

○委員長（藤澤和成君） 篠崎シティプロモーション推進課長。

○シティプロモーション推進課長（篠崎英俊君） お答えいたします。

昨年度、シティプロモーション推進委託料ということで計上させていただいて、今年度より目的を明確にしたシビックプライド向上の支援委託ということでちょっと名前を変えさせていただきました。中身については、市民で構成するシティプロモーションプロジェクト会議、職員で構成する筑西市シティプロモーションCFT会議の運営の支援、意見や課題の集約ですとか分析等とかも含めまして、そのほかPRのための広告、ポスター製作、そのほかブランドメッセージロゴ「しあわせをおすそわけするまち筑西市」、こちらに特化した、今年度は団体等、市民等が活躍している動画、こちら市民の方に多数出演していただいた動画を作成しまして、それでプロモーション、PRしていきたいというふうに考えております。

○委員長（藤澤和成君） 國府田委員。

○委員（國府田和弘君） 今のお話ですと、基本的に去年とあまり内容的に変わらないような感じがするのですけれども、去年どのような事業を行って、どのような評価をして、今回も同じようなことをするのか。その評価軸についてお伺いいたします。

○委員長（藤澤和成君） 篠崎シティプロモーション推進課長。

○シティプロモーション推進課長（篠崎英俊君） 去年というか、今年度シティプロモーションの「しあわせをおすそわけするまち筑西市」、これを市民のほうに広く伝えていきたいと思いますということで、シティプロモーションプロジェクト会議ですとかCFT会議を進めながら、あと魅力あるまち筑西の情報資源の発信ということでSNS等で発信をさせていただきました。

評価について、実施計画なんかの結果、数値目標として地域を推奨する意識ですとか、市のイベント等に参加する意欲ですとか感謝意欲、こちらの数値を毎年アンケートで取りまして、その数値、どれだけ改善しているかとか、そういったことではかっていこうという形でやっております。なかなか全体の数値がすぐぼんというふうに上がるようなものではないのですが、参加意欲、感謝意欲などについては微増ではありますが、前の年よりは増えているような形で結果が出ております。

以上です。

○委員長（藤澤和成君） 國府田委員。

○委員（國府田和弘君） 一応ちゃんとアンケートを取って、数値目標をある程度達成しているということで、前回は微増だったと。今年はさらに増やせるように頑張っていたらと思います。

○委員長（藤澤和成君） 日高委員。

○委員（日高久江君） 予算書60ページの海外友好都市推進事業なのですが、先ほど日本オフィスというふうに言われたかと思うのですが、その点、少し説明をお願いします。

○委員長（藤澤和成君） 篠崎シティプロモーション推進課長。

○シティプロモーション推進課長（篠崎英俊君） お答えいたします。

日本オフィスは、実際グアムの州政府の観光局がグアムに本局がありまして、その日本オフィスということで日本橋のほうにあるのですが、職員は日本の方で7名ほどいらっしゃるのだと思うのですが、こちらのほうが本局とのやり取りをしていただいて、こちらの要望とかを伝えていただくような形で今やっ

ております。

○委員長（藤澤和成君） 日高委員。

○委員（日高久江君） まだあんまりきちんといろいろ決まっていないということだったのですが、旅費で29万5,000円というのは、これは職員がどこかに行くとか、そういうことではなく、向こうから来てもらうとか何か、日本橋に行くとか、そういったところの旅費ということになるのでしょうか。

○委員長（藤澤和成君） 篠崎シティプロモーション推進課長。

○シティプロモーション推進課長（篠崎英俊君） お答えいたします。

基本的には、そちらのオフィスのほうに行ったり、そのほかに一般財団法人自治体国際化協会といった形の、自治体が海外の交流する際にアドバイスなどをしていただいている協会があるのですが、そちらにお伺いしたりという形の職員が行く旅費という形、調査研究での旅費を想定しております。

以上です。

○委員長（藤澤和成君） 日高委員。

○委員（日高久江君） ご存じだと思うのですが、笠間市とかは台湾と交流連携協定を締結して、台湾に事務所があるということで、そちらにも職員を派遣したりということをしているということなのですが、そういったことも今後見通しとしてはあるのかどうか、お伺いいたします。

○委員長（藤澤和成君） 篠崎シティプロモーション推進課長。

○シティプロモーション推進課長（篠崎英俊君） お答えします。

グアムに対してということですかね。

（「グアムに向けてとか」と呼ぶ者あり）

○シティプロモーション推進課長（篠崎英俊君） （続）そこまでの想定は今のところできておりませんので、取りあえずそのきっかけとして交流を始めて、そこから姉妹都市ですとか友好都市の締結に結びつけられればというふうに考えておりますので、そこまでのことは今のところ申し訳ないです、想定はしておりません。

○委員長（藤澤和成君） 新井委員。

○委員（新井 暁君） 予算書51ページの協働のまちづくり支援事業、こちらが例年だと大体5組ぐらいなのですけれども、何組ぐらいを想定しているのかという部分と、その2個下、集会施設修繕補助事業、こちらも大体どのぐらいの割合といいますか、件数を予想しての予算かをお聞きしたいと思います。

○委員長（藤澤和成君） 以上2点ね。

○委員（新井 暁君） はい。

○委員長（藤澤和成君） 小林市民協働課長、答弁を願います。

○市民協働課長（小林 均君） それでは、お答えいたします。

まず、1点目の協働のまちづくり支援事業でございます。これにつきましては、令和7年度は5件を想定してございます。

もう1つ、2点目です。集会施設修繕補助事業なのですが、こちらについては集会施設15施設を想定してございます。

以上です。

○委員長（藤澤和成君） 新井委員。

○委員（新井 暁君） 協働のまちづくり支援事業なのですけれども、これは全部ハードでとかというエントリーになってしまったりとかする場合は、うまく予算に応じて振り分けるものなのですか。

○委員長（藤澤和成君） 小林市民協働課長。

○市民協働課長（小林 均君） お答えいたします。

あくまでその年に市民団体の方々がどのような計画を持って市のほうに申請していただけるかというのを尊重してございますので、いただいた申請を基に予算を要求して予算化しております。

以上です。

○委員長（藤澤和成君） 新井委員。

○委員（新井 暁君） それでは、最後に、これは例年大体どのぐらいエントリーして、コンペはちょっと私参加したことあるのですけれども、大体エントリーしている人が落ちたりはしていないのですか。

○委員長（藤澤和成君） 小林市民協働課長。

○市民協働課長（小林 均君） こちら、今は協働のまちづくり支援事業という名称なのですが、その前身の合併振興基金活用事業、そちらのほうになってからは申請いただいて、選定委員会にかけた事例については落ちたというか、そのものはございません。

○委員長（藤澤和成君） 赤城委員。マイク、すみません。

○委員（赤城正徳君） 予算書ページ数、62ページで防犯対策費、その中の……

○委員長（藤澤和成君） 市民安全課です。

○委員（赤城正徳君） 違うのか。では、いいです。

○委員長（藤澤和成君） いいですか。

そのほか。

○委員長（藤澤和成君） なければ、以上で市長公室関係を終わりにします。お疲れさまでした。

ここで、休憩いたします。

〔市長公室退室。総務部入室〕

休 憩 午前10時45分

再 開 午前10時59分

○委員長（藤澤和成君） 休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

次に、総務部関係について審査を願います。

質疑を願います。

日高委員から。

○委員（日高久江君） 予算書38ページの文書発送経費についてなのですが、令和6年度予算は5,186万8,000円で、令和7年度については7,107万3,000円ですが、差額1,920万5,000円、これ郵便料金の値上げということが大きいと思うのですけれども、昨年と同じ発送件数というのを想定して予算を立てられたのか、ペーパーレス化とか、そういったことを進めている上で、文書発送関連でDX化できる部分というのは検討されたのかどうか伺います。

それと、予算書40ページ、職員研修経費、職員研修として昨年同様でメンタルヘルス研修とか接遇研修とかOJT研修とか階層別研修が計画されているのですけれども、これは非常に重要な研修だと思うのですが、スキルアップにつながる、そういった専門的な知識とか、そういったものをつける研修とか、仕事の効率化を図るための研修といったものは実施されているのか。その部分に予算化というのはされていないのか、伺います。

それと、明野支所維持管理費、予算書45ページです。明野支所維持管理費の中に遊具点検委託料8万3,000円と遊具等撤去工事費40万円、これが令和6年度も遊具の点検が8万3,000円と、撤去工事費が37万2,000円と計上があるのでありますが、この遊具はどこにあって、2年にわたって撤去工事をするのか、撤去工事するのだけれども、点検もするのか。点検するものと撤去するもの、別物なのかどうか伺いたいです。

予算書45ページ、協和支所維持管理費で駐車場の改修工事なのですが、身障者用駐車場設置ということなのでありますが、どの位置に何台設置されるのか、あとコミュニティセンターの入り口までの距離がどれぐらいなのか、今までよりどれぐらい近くなるのかをお願いします。

以上です。

○委員長（藤澤和成君） それでは、順次答弁をお願いします。

初めに、根本総務課長。

○総務課長（根本 薫君） 文書発送経費についてお答えいたします。

ご指摘のとおり、予算の増につきましては、昨年10月から郵便料金が値上がりしたことによりまして、予算額も増額しているものでございます。ご質疑の中で、発送経費を抑えるような何か工夫はということだったと思いますが、文書管理システムを来年度から運用しまして、庁内の文書量につきましては電子化が進むと思うのですが、発送する文書につきましては残念ながらすぐには減らないかなと考えております。やはり受け取る側の課題もありますし、例えば市民の方に出す通知文とかですと、公印を押さなければならぬということもありますので、そういった課題が幾つかありまして、まさしく通知文書の電子化というのはこれからの文書量を減らしていく上での一番大きな課題かなとは思っております。

以上でございます。

○委員長（藤澤和成君） 続いて、田崎人事課長、答弁をお願いします。

○人事課長（田崎和彦君） お答えいたします。

研修についてなのですが、こちらに書いてありますメンタルヘルス研修、接遇研修、OJT研修、階層別研修、それ以外のスキルアップ、様々な研修についてということだと思っておりますが、こちらにつきましては県の自治研修所等を利用して様々な研修を行っております。その研修についての負担金としまして、説明欄18の負担金で40万円ほど載せさせていただいております。具体的には、コンプライアンスであったり、法制執務であったり、キャリアデザイン、様々な項目がございます。

以上です。

○委員長（藤澤和成君） 続いて、荒井明野支所長、答弁をお願いします。

○明野支所長（荒井みつ江君） 答弁いたします。

明野支所で管理しています児童公園なのですが、3か所ございまして、寺上野の児童公園と向上野の児童公園と海老江の児童公園、3か所あります。その遊具の点検とかを業者に委託いたしまして点検して

いただいて、もう老朽化しているので危ないので、これは撤去したほうがいいのかというのを受けまして撤去しているのですが、昨年度が向上野のブランコ、あと寺上野の砂場、2か所が解体とか、そういうふうに撤去したほうがいいのかと言われてまして撤去しました。今年度は、去年点検した結果、向上野児童公園の飛行機ジム、こちらがもうやはり老朽化して危ないので、撤去したほうがいいのかということを受けまして、予算のほうに上げました。

以上です。

○委員長（藤澤和成君） 石橋協和支所長、答弁願います。

○協和支所長（石橋英浩君） 協和支所の駐車場改修工事でございますが、場所につきましては支所の入り口のすぐ南側に設置する予定でございます。台数といたしましては2台を予定しておりまして、距離的には支所の入り口までには約10メートル、すぐ隣に設置なので10メートルないとは思いますが、協和コミュニティセンターの入り口までですと約20メートルから30メートルぐらいになると思います。

以上でございます。

○委員長（藤澤和成君） 日高委員。

○委員（日高久江君） 協和支所なのですけれども、今までよりどれくらい近くなるのか。

それと、明野支所で管理している公園なのですが、そうしますと徐々にこういった遊具は撤去していつて、新設ということはない。いずれは遊具もなくなるということになるのか。

文書発送経費については、今後課題を解決に向けて進んでいくということによろしいでしょうか。

以上です。

○委員長（藤澤和成君） 研修についてはいいのですか。

○委員（日高久江君） 研修については大丈夫です。

○委員長（藤澤和成君） 大丈夫ですか。

○委員（日高久江君） はい。

○委員長（藤澤和成君） 初めに、根本総務課長。

○総務課長（根本 薫君） お答えいたします。

発送の部分の課題については、一番大きな課題は電子公印という課題が残っていると思っております、それについては送る側である市役所側と受け取る側である市民の方もスマートフォンとか端末とか、そういった環境整備も必要になってくると思いますので、その辺の進み具合が課題かなと思っております。

以上でございます。

○委員長（藤澤和成君） 荒井明野支所長。

○明野支所長（荒井みつ江君） お答えいたします。

点検いたしまして、老朽化したものは徐々に撤去していくという形で、特に新設するという予定とかはございません。

以上です。

○委員長（藤澤和成君） 石橋協和支所長。

○協和支所長（石橋英浩君） お答えいたします。

前の距離と今までの距離、どのぐらいかということなのですけれども、設置する前ですとコミュニティセンターのホールのすぐ南側に駐車場がございまして、そこから協和支所入り口までですと約30メートル

から40メートルぐらいあると思うのですけれども、それが今回の予算計上させていただいた2台分につきましては10メートルぐらいになりますので、ただそのコミュニティセンターまでの入り口につきましては、それほどは変わらないのかなというところなのです。支所の入り口のすぐ隣なので、支所のほうには本当に近くに設置する予定でございます。

以上でございます。

○委員長（藤澤和成君） 日高委員。

○委員（日高久江君） 分かりました。

○委員長（藤澤和成君） 仁平委員。

○委員（仁平正巳君） 公用車について、ここでいいのですね。公用車。

（「管財です」と呼ぶ者あり）

○委員（仁平正巳君） （続）いや、各支所とか本庁とか管理しているのでしょうか、だって。車両。

（「車両の管理」と呼ぶ者あり）

○委員（仁平正巳君） （続）車両の管理、オーケーね。

（「はい」と呼ぶ者あり）

○委員（仁平正巳君） （続）ちなみに公用車は本庁、支所、出張所含めて全部で何台ありますか。

（「支所の分しか」と呼ぶ者あり）

○委員（仁平正巳君） （続）では、支所の分だけでもいいです。

○委員長（藤澤和成君） 1点でいいですか。

○委員（仁平正巳君） はい。支所の分。

○委員長（藤澤和成君） 初めに、本田関城支所長。

○関城支所長（本田浩二君） ご質疑にご答弁申し上げます。

関城支所で管理している公用車は3台でございます。

以上でございます。

○委員長（藤澤和成君） 荒井明野支所長。

○明野支所長（荒井みつ江君） お答えいたします。

明野支所も3台でございます。

以上でございます。

○委員長（藤澤和成君） 石橋協和支所長。

○協和支所長（石橋英浩君） 協和支所につきましては、コミュニティセンターと共同で利用させていただいていますので、4台でございます。

以上でございます。

○委員長（藤澤和成君） 仁平委員。

○委員（仁平正巳君） 多分4ナンバーが多いと思うのですけれども、毎年車検ありますね。全国各地で今車検切れの車を乗っている自治体が新聞紙上にぎわしておりますけれども、大丈夫ですか、それは。管理について。

○委員長（藤澤和成君） まず、本田関城支所長から。

○関城支所長（本田浩二君） ご答弁申し上げます。

関城支所の公用車の管理におきましては、それぞれの公用車の車検期限を当然管理しておりまして、また点検業者さんのほうからもその時期の何か月かになるとはがきが届くという形に現在なっております。

以上でございます。

○委員長（藤澤和成君） 荒井明野支所長。

○明野支所長（荒井みつ江君） ご答弁いたします。

明野支所のほうでも、きちんと車検のほうは時期になりましたらやっております。

以上でございます。

○委員長（藤澤和成君） 石橋協和支所長。

○協和支所長（石橋英浩君） 協和支所につきましても、年度初めに必ずその年の車検のいついつあるということは確認しております。

以上でございます。

○委員長（藤澤和成君） 仁平委員。

○委員（仁平正巳君） 最後。その車検の業者、いわゆる自動車屋さん、この選定はどういうふうになっていますか。

○委員長（藤澤和成君） 本田関城支所長。

○関城支所長（本田浩二君） ご答弁申し上げます。

それぞれ車両を購入された時点の、その車屋さんをお願いしていると。関城支所では、それぞれの購入先が違うので、3か所に分散して車検整備をお願いしているということでございます。

以上です。

○委員長（藤澤和成君） 荒井明野支所長。

○明野支所長（荒井みつ江君） ご答弁いたします。

明野支所のほうでも、それぞれの業者のほうに車ごとになっていますので、そちらのほうの業者をお願いしています。

○委員長（藤澤和成君） 石橋協和支所長。

○協和支所長（石橋英浩君） 協和支所につきましても、購入先で車検をすることになっております。

以上でございます。

○委員長（藤澤和成君） 水柿委員。

○委員（水柿美幸君） 予算書39ページの下の段で人事管理費の中で、次のページに行くのですが、人事給与システム改修委託料というのはどちらに委託されているのか、1点だけなのですが。

○委員長（藤澤和成君） 田崎人事課長。

○人事課長（田崎和彦君） こちらは、現在使用していますシステム、株式会社ジーシーシーというところに委託しております。

○委員長（藤澤和成君） 水柿委員。

○委員（水柿美幸君） それは、どのような方法でそちらに決まったのか、また今回どのようなことを改修するのかをお伺いします。

○委員長（藤澤和成君） 田崎人事課長。

○人事課長（田崎和彦君） こちらにつきましては、業者選定につきましてはプロポーザルで決まってお

ります。今回の改修につきましては定期的な改修でございまして、何年かに1度のメンテナンスというところでございます。

○委員長（藤澤和成君） 水柿委員。

○委員（水柿美幸君） では、株式会社ジーシーの本社というのはどこになるのか。それと、また旧姓使用なんていうのは使えるように改修するのか、お伺いします。

○委員長（藤澤和成君） 田崎人事課長。

○人事課長（田崎和彦君） 株式会社ジーシーの本社は群馬県だったと思います。実際取引しているのは茨城支社で契約行為を行っております。

あと、名前ですか、名前につきましてはまだどういうふうな対応をするかというのは決まっていますので、それを現時点で改修するということは考えておりません。

以上です。

○委員長（藤澤和成君） 森委員。

○委員（森 正雄君） 1点だけ伺います。

予算書40ページです。メンタルヘルス研修委託料ということで、52万6,000円計上されてございますけれども、今ストレス社会という中で心の健康といたしましうか、職場内で維持していくことは大変重要なことであるというふうに思います。そういう中で、今現在そういうメンタルヘルスではないですが、心を病んで休んでいる職員はどのくらいいるのか、教えてください。

○委員長（藤澤和成君） 田崎人事課長。

○人事課長（田崎和彦君） 現在休職者が7名おります。長期の療養休暇者が3名でございます。このうち心、精神的な部分でいいますと、休職者7名のうち1人は精神と肉体的な部分、残り6名は精神的なところです。長期の療養休暇者3名につきましては、2人が病気とけが、これは身体的なものです。1人が精神的なものです。

以上です。

○委員長（藤澤和成君） 森委員。

○委員（森 正雄君） 分かりました。かなりそういうことで休んでおいでになるということですが、休んでいる間の市としての対応というのですか、そういったところ、フォローといたしましうか、どういったことをしているのか、教えてください。

○委員長（藤澤和成君） 田崎人事課長。

○人事課長（田崎和彦君） 休暇者につきましては、月1度の面談を義務づけております。それは、所属長で面談をするか、または総務部付になっていた場合は私のほうで月1回必ず連絡を取って、状況等を確認するようにしております。

以上です。

○委員長（藤澤和成君） 森委員。

○委員（森 正雄君） 分かりました。

○委員長（藤澤和成君） 堀江委員。

○委員（堀江健一君） 予算書46ページ、川島出張所についてお聞きしたいのですが、川島出張所はまだ新しいのですね。

(「ごめんなさい。出張所は市民環境」と呼ぶ者あり)

○委員(堀江健一君) (続) 市民環境のほう。ああ、そう。

○委員長(藤澤和成君) いいですか、では。

○委員(堀江健一君) いいです。

○委員長(藤澤和成君) 國府田委員。

○委員(國府田和弘君) では、予算書39ページ、行政不服審査会経費についてお伺いいたします。

まず、この組織、この会議はどのようなものなのか、人数や構成員についてお伺いいたします。

○委員長(藤澤和成君) 根本総務課長、答弁を願います。

○総務課長(根本 薫君) お答えいたします。

行政不服審査会につきましては、市の処分、それから情報公開請求などに対して市民の方が不服があったときに、行政不服審査法に基づいて審査請求というものが行われます。その請求があったときに、その内容について審査する委員会でございます。メンバーは5人でございます。現在のところ、司法書士の方や弁護士の方、それから元教員の方などに委員になっていただいております。

以上でございます。

○委員長(藤澤和成君) 國府田委員。

○委員(國府田和弘君) 5人ということで予算が7万5,000円、これは大体何回ぐらい行われるのかということをご想定しているか、お伺いいたします。

○委員長(藤澤和成君) 根本総務課長。

○総務課長(根本 薫君) お答えいたします。

予算的には、年3回分の予算を計上してございます。

以上でございます。

○委員長(藤澤和成君) 國府田委員。

○委員(國府田和弘君) 過去に不服申立てあったことはあるのでしょうか。

○委員長(藤澤和成君) 根本総務課長。

○総務課長(根本 薫君) お答えいたします。

今年度は今のところございません。令和5年度に1件ございました。

以上です。

○委員長(藤澤和成君) 鈴木委員。

○委員(鈴木一樹君) 1点だけお伺いいたします。

予算書45ページの協和支所維持管理費なのですが、その中に防犯カメラ設置工事費があると思うのですが、これはほかの支所だったり、出張所にはあって、協和支所にはなかったから今回新設するような形になったのかどうか、お伺いします。

○委員長(藤澤和成君) 石橋協和支所長、答弁願います。

○協和支所長(石橋英浩君) 鈴木委員のおっしゃるとおり、協和支所には現在会計事務のところのカメラはあるのですが、窓口を映している防犯カメラが協和支所だけございませんので、そちらで今回予算を計上させていただいたところでございます。

以上でございます。

○委員長（藤澤和成君） 鈴木委員。

○委員（鈴木一樹君） ありがとうございます。

○委員長（藤澤和成君） そのほか、よろしいですか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（藤澤和成君） 以上で総務部関係を終了いたします。

総務部の皆様、お疲れさまでした。

〔総務部退室。企画部入室〕

○委員長（藤澤和成君） それでは、続いて企画部関係について審査願います。

質疑を願います。

水柿委員。

○委員（水柿美幸君） 2点お伺いします。

予算書64ページの一番上、筑西市DX推進事業、これの一番下にありますスマートフォン購入補助金というのは、次年度から新しく入ってくるものだと思うのですが、これについて少し説明はあったのですが、詳しくお伺いすることと、予算書66ページの自治体情報システム標準化事業（住民情報システム）、これも新しい事業かと思しますので、ちょっと詳しくお願いします。

○委員長（藤澤和成君） 以上2点でいいですか。

○委員（水柿美幸君） はい。

○委員長（藤澤和成君） 初めに、仁平行革DX推進課長、答弁願います。

○行革DX推進課長（仁平正幸君） お答えいたします。

スマートフォン購入補助金でございますが、今委員おっしゃっていただいたとおり、令和7年度の新規事業となっております。内容の概要をご説明したいと思うのですが、65歳以上のシニア世代の方を対象としておまして、そちらの方がマイナンバーカードに対応したスマートフォンを初めて購入した場合に補助の対象とするというようなことで考えております。このほかちょっと細々した条件があるのですが、それはただいま最終調整中でございます。

以上でございます。

○委員長（藤澤和成君） 続いて、武井情報システム課長、答弁願います。

○情報システム課長（武井義徳君） お答えいたします。

自治体情報システム標準化事業（住民情報システム）ということに関してでございますが、これは全国の各自治体がばらばらに導入、運用しております住民記録であるとか税、福祉等の基幹系業務システムにつきまして、行政の効率化、コスト削減、住民サービス向上を目的に、システムの機能やデータ形式などを国が示す標準仕様に合わせる取組となっております。全国の市町村が、住民サービスに直結する20業務を対象に、令和7年度末までの移行を目指しております。なお、本市では、標準仕様へのシステム移行時期を令和7年12月に設定しまして、現在準備作業を進めておるところでございます。

以上でございます。

○委員長（藤澤和成君） 水柿委員。

○委員（水柿美幸君） 1つ目のスマートフォン購入補助金ですが、今マイナンバーカードに対応するようということだったのですが、市民にとってどのようなメリットがあるのかお伺いすることと、情報シ

システムの標準化、こちらも市民にとって何かメリットがあるのか、それとも自治体の業務に対してメリットがあるのか、その辺をお伺いします。

○委員長（藤澤和成君） 仁平行革DX推進課長。

○行革DX推進課長（仁平正幸君） お答えいたします。

マイナンバーカードを使用する場面というのは近年増えているというのは委員もご存じかと思うのですが、まず現在ですと保険証がマイナンバーカードとひもづけられまして、マイナンバーカードの保険証として使うことができると。もう1つ大きなところでは、確定申告のところではマイナンバーカードをお使いになると、混んでいる税務署の窓口などに出向かなくても、ご自宅とかから申請もできるというふうなところはメリットに挙げられると思います。

以上でございます。

○委員長（藤澤和成君） 武井情報システム課長。

○情報システム課長（武井義徳君） システムの標準化、共通化のメリットにつきましてご説明させていただきます。

主なものを3点ほど挙げさせていただきますと、まず1点目が行政運営の効率化でございます。これは、共通仕様にするにより、制度改正やシステムのアップデートの手間が大幅に削減されるといったものでございます。次に、2点目でございますが、住民サービスの向上でございます。オンライン化や自治体間の連携がしやすくなり、手続が簡素化、迅速化されるといったようなものでございます。次に、3点目でございます。3点目が、コスト削減でございます。長期的にシステム維持管理費用を抑え、財政負担が軽減されるといったようなものでございます。

以上でございます。

○委員長（藤澤和成君） 水柿委員。

○委員（水柿美幸君） 最後ですけれども、スマートフォンを購入した方に対する、スマートフォンの使い方とか、そういうものに対してはどのような対応をされるのか、お伺いします。

○委員長（藤澤和成君） 仁平行革DX推進課長。

○行革DX推進課長（仁平正幸君） お答えいたします。

まず、この補助金の条件としまして、スマートフォンの購入時に販売店のほうで基本的な操作ですとか、そういったところの説明は受けていただくというようなことを条件にしております。また、販売店のほうにもその旨お願いをするつもりでございます。また、そのほかに市のほうでこれまでも実施しておりますけれども、スマートフォンの使い方を学んでいただくスマホ教室ですとか、あとスマホ相談ボランティアというのも今年度実施しておりますので、そちらのボランティアさんに教わっていただくというようなこともできるのかなと考えております。

以上でございます。

○委員長（藤澤和成君） 仁平委員。

○委員（仁平正巳君） 予算書67から68ページ、筑西市誕生20周年を市民みんなで盛り上げる事業補助金795万円、これはどういうことをやるのか。

それと、予算書68ページの一番上のウェルフェアアートというのは何のことなのか、説明願います。

○委員長（藤澤和成君） 野口企画課長、答弁願います。

○企画課長（野口直秀君） 答弁いたします。

筑西市誕生20周年を市民みんなで盛り上げる事業補助金につきましては、こちらは市民の方皆様に20周年の機運を醸成していただくということで、20周年の特別な企画を催してもらうイベントについて補助を行うものでございます。令和7年度につきましては、一般枠として20件、これは1団体3分の2補助で30万円、あと学生枠という学校関係の枠も設けまして、こちらは13件分15万円、学校関係については100%補助を行っております。

内容につきましては、令和6年度の実績ということでご説明差し上げたいと思うのですが、本年度は採択の件数として9件ございました。一般枠が5件、代表的なものを幾つか申し上げますと、下館大町通りだるま市とか、招福館男・館女、今アルテリオで開催しておりますひなめぐりなどが一般枠の対象のうちになってございます。また、学校枠につきましては3件ございまして、下館一高が行いましたビアフェス、また新治小学校で、これはパラリンピックの選手なのですけれども、山口選手という方がいらっしやいまして、ボールゴールというふうな競技の選手でございます。こちらの講演と体験、あと下館南中学校の定期公演の特別企画というものを実施してございます。来年度につきましても、同じように実施したいと考えてございます。

もう1点、ウェルフェアアートでございます。ウェルフェアという言葉自体が、福祉幸福、快適な生活というものを意味する単語でございまして、ウェルフェアアートといえますのは、特にその中でも障害者支援施設の利用者の方が描いた作品を展示したり、場合によっては販売したりするようなアート活動のことでございます。令和7年度の20周年記念事業としまして、市内の幼稚園や保育園のお子さんたち、あと障害者施設の利用者の方々が共同してアート作品を作るといふようなところを予定しているところでございます。

以上でございます。

○委員長（藤澤和成君） 仁平委員。

○委員（仁平正巳君） 今伺いました、例えばだるま市とかひなめぐりとかビアフェスというのは、今までも20周年記念に関係なくやっていたね。何でこれ特別に今回上げるのか。

それから、20件、13件という数が出ていますけれども、もう既にこういう企画があるのですか、具体的に。

○委員長（藤澤和成君） 野口企画課長。

○企画課長（野口直秀君） ご答弁いたします。

こちらの制度の趣旨としましては、新しいイベントをイメージしておるところなのですが、既存の事業であっても、20周年で特別に何かやるというものに対しては補助対象としているところでございます。その場合については、特別な部分のみ補助対象として支援させていただくという形で考えてございます。また、令和7年度につきましては、今相談で10件ほど来ておるのですが、まだ具体的な申請はいただいているものはございませんので、今後その辺につきましては各団体と調整してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○委員長（藤澤和成君） 仁平委員。

○委員（仁平正巳君） 令和7年度ですから、これから1年間、様々な飛び込みでイベントが出てくるか

もしれません。それで、令和6年度の事業で20周年記念事業、ダイヤモンドホールで大々的に行われましたが、企画部とは直接的には関係ないかもしれませんが、あのときに来賓者は車のフロントに駐車券を置いて来て下さいということで、私そういうふうにしたら、車の種類を見て警備員が、私は軽自動車に乗っていったもので、向こうへ行け、向こうへ行けと言うのです。私の後ろから来た車はちょっといい車で、駐車券貼ってなくても中へ入れてくれるのだ。そういう委託の仕方はないので、20周年記念事業で例えば警備員を頼むような事業があった場合には、もうちょっときちんとした警備会社を選定してほしいのです。言いたいのはそこなのです。私は軽自動車なもので、向こうへ行けと言われたのです、ちゃんと出して。それは憤慨していますので、この部課ではないかもしれないけれども、直接的な担当は。そういうことを気をつけてください。

以上です。

○委員長（藤澤和成君） 森委員。

○委員（森 正雄君） 地方創生課長にしないと、質疑。

予算書53ページです。地域おこし協力隊活用事業5,529万1,000円ですけれども、この地域おこし協力隊については活動経費がおおむね国の特別交付税ということで、一般財源で上がっていますけれども、特別交付税ということで交付される有利な事業であると理解しています。そこで、この事業で着眼というか、視点に置かなくてはならないのは、活動もそうですけれども、基本的には定着をして、引き続いて継続的に活動するということに力点を置かなくてはならないのだろうというふうに思います。そういう中で、今現在その辺どのように推移しているのか、教えてください。

○委員長（藤澤和成君） 山崎地方創生課長、答弁をお願いします。

○地方創生課長（山崎君恵君） お答えいたします。

地域おこし協力隊の活動としましては、最終的な目標としましては市のほうに定住、定着していただくというのが目的になっておりますので、今現在10名の隊員の方が活動していらっしゃるところでございまして、今年度お二人の隊員が任期満了を迎えるということですが、こちらの隊員の方たちも引き続き筑西市のほうに定住していただいて活動していただけるということですので、市としましては今後協力隊の方が増えていく中で市のほうに定住していただけるようなフォローをしていくような形にしたいと考えております。

以上でございます。

○委員長（藤澤和成君） 森委員。

○委員（森 正雄君） 一般質問でも前に触れました。今その役割を、隊員としての役割が終わった人で定住の割合、ちょっと確認させてください。

○委員長（藤澤和成君） 山崎地方創生課長。

○地方創生課長（山崎君恵君） お答えいたします。

隊員が終了した方4名ほどいらっしゃいまして、うち3名の方が市内に定住していただいております。

以上でございます。

○委員長（藤澤和成君） 森委員。

○委員（森 正雄君） 定住率という面ではほかよりはいいのですか。

○委員長（藤澤和成君） 山崎地方創生課長。

○地方創生課長（山崎君恵君） お答えいたします。

令和5年4月1日現在のデータになってしまうのですが、全国平均では定着率が65%、茨城県のほうでは59%でございますので、筑西市のほうでは4人中3人ということで75%ということで、上回っている状況でございます。

○委員長（藤澤和成君） 森委員。

○委員（森 正雄君） 分かりました。引き続き頑張ってください。

○委員長（藤澤和成君） 鈴木委員。

○委員（鈴木一樹君） 予算書の52ページ、定住促進結婚祝金事業1,000万円ついているのですけれども、何件を予定しているのか、お伺いいたします。

次に、予算書の57ページ、移住定住促進事業、こちらのほうも何件を見込んでいるのか、お伺いをいたします。

すみません。あと予算書67ページの筑西市誕生20周年記念事業で公用車等ラッピング委託料があると思うのですけれども、今公用車のほうにすごく目立つラッピングがされていると思うのですけれども、これ20周年が終わったら剥がしてしまうのかどうか、お伺いいたします。

以上、3点お願いします。

○委員長（藤澤和成君） 山崎地方創生課長。

○地方創生課長（山崎君恵君） お答えいたします。

定住促進結婚祝金事業でございますが、100組の交付を予定しております。

もう1点の移住定住促進事業の移住支援金の件数の予定でございますが、単身で3名、世帯が3世帯、子供加算で6名分を予定しております。

以上でございます。

○委員長（藤澤和成君） 野口企画課長。

○企画課長（野口直秀君） 答弁いたします。

ラッピングにつきましては、20周年終了後に剥がす予定でございます。今回の委託料につきましては、剥離の委託料となっております。

以上でございます。

○委員長（藤澤和成君） 鈴木委員。

○委員（鈴木一樹君） 移住定住促進に関しては、本当にどこの自治体でも一番力を入れているのではないかと、多分どこも力入れていると思うので、筑西市の独自のカラーを出して、本当に予算ついた交付金が全て使われるぐらいに頑張ってもらえればなというふうに思います。

ちょっとラッピングの件なのですけれども、あれ1年ぐらいで外してしまうのはもったいないと思うのですけれども、どうなのですか。これ、ブランドメッセージとかのシールとかにはしなかったのは何でなのかなと思ったりするのですけれども、その辺お伺いします。

○委員長（藤澤和成君） 野口企画課長。

○企画課長（野口直秀君） 答弁いたします。

確かに20周年の期間が令和8年1月で終わりますので、もったいないというご意見もとてもだと思いますので、もし残すのであればどのような形で残せるのか、所管する管財課のほうと相談してまいりたいと

思います。少なくとも20周年のマークとか、そのあたりは厳しいかなというふうに感じるどころでありますので、そこは調整させていただければと思います。

なお、ブランドメッセージにつきましては、企画部所管としては20周年を強く打ち出したいという部分がありまして、そちらについても今後少し所管課のほうと検討してまいりたいと思います。

以上でございます。

○委員長（藤澤和成君） 鈴木委員。

○委員（鈴木一樹君） ありがとうございます。

○委員長（藤澤和成君） 塚田委員。

○委員（塚田砂与君） 予算書53ページ、地域おこし協力隊活用事業のところなのですが、これ5,500万円と随分大きいのですが、報償費、あと委託料、あと18番の負担金補助及び交付金の活動の補助金など、詳しく説明をお願いします。

○委員長（藤澤和成君） 山崎地方創生課長。

○地方創生課長（山崎君恵君） お答えいたします。

地域おこし協力隊の活動事業費の中の7番の報償費のほうですが、こちらは協力隊員の報償費、毎月26万6,000円の報償費の人数分になっております。

12番の委託料でございますが、こちらに関しましては新しく協力隊を募集する採用の支援業務委託料と、あとはお試し地域おこし協力隊実施業務、こちら協力隊になりたいという方がお試しで市のほうに2泊3日程度で来ていただく体験プログラムの業務の委託になっております。あとは活動報告会、今いる協力隊の方たちが自らの活動報告会をしたいということで、あさって、道の駅グランテラス筑西のほうで活動報告会をさせていただくようなことを次年度もやっていく企画料になっております。

あとは、18番負担金補助及び交付金でございますけれども、こちら活動中の地域おこし協力隊の活動費補助金になっております。あとは、地域おこし協力隊が退任後に起業するための事業承継支援の補助金の積算になっております。

以上でございます。

○委員長（藤澤和成君） 塚田委員。

○委員（塚田砂与君） これは、一般の方たちも私たちもそうなのですが、どこまでが活動内容なのか、そしてどこからがそれぞれ個人なのかがちょっと分からない部分があるのです、活動されている様子を見ていまして。そういったところをちょっと説明いただけると。例えばそれぞれ地域おこし協力隊の方に講師をお願いしたりとかする場合なのですが、講師をお願いしたりとか、そういう場合にそれは協力隊の範囲と個人の範囲という区別ですか、それはどの辺りからの区別になるのかというあたりです。協力隊として活動、お手伝いをして講師として来てもらうというのはどの範囲なのかとか、その辺りですか。

○委員長（藤澤和成君） 山崎地方創生課長。

○地方創生課長（山崎君恵君） お答えいたします。

今委員がおっしゃっていただいたような協力隊という立場で講師のほうに招かれた場合ですとかは、活動費の補助金の中での支払いになる形になります。協力隊の活動は、月160時間、協力隊としての活動をしていただくということで採用させていただいておりますので、その中で活動していただく協力隊としての活動として活動した場合には協力隊の補助金というところで。

〔その定義とか〕と呼ぶ者あり〕

○委員長（藤澤和成君） 塚田委員。

○委員（塚田砂与君） 定義とか、何か書類を作成しなければいけない、報告とかその範囲とか、そういうものが分かるものがありましたら、この範囲でやっていただけるとか何か。

○委員長（藤澤和成君） 山崎地方創生課長。

○地方創生課長（山崎君恵君） お答えいたします。

市のほうといたしましては、毎月協力隊の方に報告ということで報告会、事業報告ということで毎月活動報告の報告書のほうを出していただいております、それを基に活動をしているということを把握しているような状況で。

以上でございます。

○委員長（藤澤和成君） 日高委員。

○委員（日高久江君） 同じ予算書53ページ、地域おこし協力隊活用事業なのですが、令和6年度よりも令和7年度、2,000万円弱ですね、違う。すみません。ちょっと計上が多くなっているかと、増額になっていると思うのですが、令和7年度はどういったことを狙って地域おこし協力隊の方に来ていただいているのかと、それから今塚田委員からありました、私も依頼したときに、その方は個人ですか、団体ですかとか、どういった方ですかというような質問をいただいたのですが、例えば個人の場合は直接お支払いをするのかとか、団体で例えば学校関係とか、申込み方法とか、そういったことであれば活動費の中に入るのか、そういったところをちょっと伺いたいです。

それと、すみません。予算書54ページ、下館駅周辺にぎわいづくり推進事業です。まちなかチャレンジショップの来店者数が目標を超えてにぎわいを見せているというふうに伺ったのですが、今年度この事業をどのように分析されて、また来年度の目標値というのはどのように設定されていくのか、見直しはされるのか、伺います。

それと、予算書63から64ページの行革DX推進課の筑西市DX推進事業なのですが、この委託料という部分でどういったところに力を注いでいくのか、スマートフォンの購入補助ということであれば、ご年配の方へのあまり足を運ばなくてもいいような形で推進をしていくのだと思うのですが、その辺り、委託料というところに関する部分でどういったところに力を注いでいくのかということと、ご年配の方のところの力の注ぎ方ですか、お願いします。

○委員長（藤澤和成君） 初めに、仁平行革DX推進課長から答弁願います。

○行革DX推進課長（仁平正幸君） お答えいたします。

筑西市DX推進事業の委託料の内容ということでご説明したいと思うのですが、こちらに上げておりますのは、まず職員のDXに関する能力ですとか、そちらを育成するための研修委託料、それから庁内の業務でRPAなどを使用しておりますが、これ現在の職員が自力でこのRPAのシナリオというのですけれども、つくっておりますが、これに限られる職員数がごく少数であるというので、ここの拡大をしたいというふうな考えがございます。

また、DX推進支援委託料というのは、これは市のDX推進全般のコンサルティングをお願いしております、現在のところだとシステムの標準化ですとか、そういったところ、非常にボリュームのある業務でして、また他自治体の情報なども参考にしたいということもありますので、こちらを外部事業者に委

託をしております。

また、仮想ブラウザ構築委託料というのは、これは情報セキュリティーの関連で取り入れているものですが、こちらをちょっと条件のいいものになりたいと思ひまして、予算を計上しているところがございます。

また、年配の方への力の注ぎ方ということになりますが、スマートフォン購入補助金、先ほど水柿委員からもご質疑いただいておりますけれども、こちらでスマートフォンを持つ人を増やしていくと同時に、スマホ教室ですとかスマホ相談ボランティア、次年度も開催予定ですので、こちらで使い方、あるいは相談に乗れる方を増やしていければというふうに考えているところがございます。

以上でございます。

○委員長（藤澤和成君） 山崎地方創生課長。

○地方創生課長（山崎君恵君） お答えいたします。

次年度の地域おこし協力隊の新しい方の募集ですが、お二人を予定しております、お一人の方は高校の必須科目にもなっております探求学習を中心に、市で抱えている地域課題の解決や活性化への糸口となる可能性を模索しまして、地域に関わる面白さを知ること、将来も地元に残りたい、地元に貢献したいという郷土愛の醸成を育むことに取り組む隊員をお一人募集する予定です。もう1人は、スポーツを軸とした地域コミュニティーの形成やスポーツツーリズムの検討、新たなスポーツコミッションの立ち上げに挑戦していただく隊員さんの募集を予定しております。

あと、もう1点、協力隊の活動なのか、個人の活動なのかという、その線引きでございますが、一応協力隊の活動の内容としましては、まちづくり及びコミュニティー活動に対する支援ですとか、地域社会の維持活性化に対する支援、地域資源の発掘及び振興に係る活動、地域の情報発信に係る活動、市外居住者の本市への移住及び定住のための支援などになっておりますので、団体さんのほうから協力隊の活動なのか、それに該当するかどうかは、事前に課のほうに相談に来ていただいて、都度対応させていただきたいと思っております。

もう1点、まちなかチャレンジショップの目標値の設定でございますが、今年度は年間3,600人というKPIを設定させていただいております。令和7年度以降につきましては、年間7,200名の来場者を予定して、さらなる活性化のほうに寄与してまいりたいと考えております。すみません。今年度KPI3,600人という設定をさせていただいておりますが、2月末現在で1日30組、レジを通った件数ですので、30組ですと何名か複数名でご来場されている方を考えますと、大きくそのKPIのほうは上回っていると感じております。

以上でございます。

○委員長（藤澤和成君） 日高委員。

○委員（日高久江君） すみません。もう1点いいですか。

予算書66ページ、自治体情報システム標準化事業（住民情報システム）なのですが、こういったことをやる時にいつもちょっとリスクとか、そういったところが出てくるかと思うのですが、そういったところについてはどのように考えておられるのか、お願いします。

○委員長（藤澤和成君） 武井情報システム課長。

○情報システム課長（武井義徳君） お答えいたします。

リスクということに関してですが、こちらは今現在使っているシステムが株式会社TKCのシステムを筑西市では利用しております。このTKCのシステムをベースとしまして、TKCのまま新しいシステムに移行しますので、これは現在のTKCと綿密に打合せをしながら現在まで準備を進めております。それによって、今計画的に進めておりますが、令和7年12月を目標としまして移行時期を目標に設定をして、予定どおり現在進捗しておるところでございます。

以上でございます。

○委員長（藤澤和成君） 堀江委員。

○委員（堀江健一君） ちくせい二十歳のふるさと便事業のまず内容をちょっと教えてください。

○委員長（藤澤和成君） 山崎地方創生課長。

○地方創生課長（山崎君恵君） お答えいたします。

ちくせい二十歳のふるさと便事業でございますが、勉強や仕事などに励む20歳の若者をお祝いし励ますとともに、本市に居住する方に対して愛着を深めまして、転出者には将来的な転入の促進を図る、移住定住を促進する事業でございます。

以上です。

○委員長（藤澤和成君） 堀江委員。

○委員（堀江健一君） これは地元の人なのか、地方へ出ている人なのか。そして、1人当たり幾らぐらいの金額で起こっているのですか。

○委員長（藤澤和成君） 山崎地方創生課長。

○地方創生課長（山崎君恵君） お答えいたします。

筑西市出身の方であれば、市内の方でも、一度出てしまった方でも差し上げるという形になっております。1人単価でございますが、送料を含めまして5,000円で考えております。

以上でございます。

○委員長（藤澤和成君） 堀江委員。

○委員（堀江健一君） そうすると何名、地方に出ている人と地元にも残っている人と両方という今お話ししましたよね。そうすると、これは20歳になった人全員に送っているという解釈でいいのかな。

○委員長（藤澤和成君） 山崎地方創生課長。

○地方創生課長（山崎君恵君） お答えいたします。

こちらは、申請制を採用しております。申請していただいた方に送るという形を取っております。次年度予算ですが、550人を想定しております。

以上でございます。

○委員長（藤澤和成君） 堀江委員。

○委員（堀江健一君） 3回だからいいや。

○委員長（藤澤和成君） よろしいですか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（藤澤和成君） それでは、以上で企画部関係を終わります。企画部の皆様は退席を願います。お疲れさまでした。

〔企画部退室〕

○委員長（藤澤和成君） 本日の予算特別委員会の審査はこの程度にとどめ、散会いたします。
この審査の続きは、来週10日午前10時から再開いたします。
本日はご苦労さまでございました。

散 会 午前11時55分